

第5回青森県社会教育委員の会議 会議概要

日時	令和2年5月20日（水） 10:00～12:00
場所	青森県庁東棟5階会議室
出席者	<p>《 委員 》 敬称略 8名 松本 大 吉川 康久 清水目 明美 永澤 正己 伏見 憲子 岩本 美和 工藤 貴子 廣森 直子</p> <p>《 事務局 》 4名 葛西 浩一（生涯学習課長） 花田 千穂（学校地域連携推進監・課長代理） 大島 義弘（生涯学習課 企画振興グループ 主任社会教育主事）他1名</p> <p>《 その他 》 3名 清川 喜之（学校教育課 課長代理） 佐藤 元伸（総合社会教育センター 教育活動支援課長） 三浦 博明（生涯学習課 地域連携推進グループ 主任社会教育主事）</p>
内容	<p>1 開 会</p> <p>2 案 件 (1) 実地調査の報告 (2) 重点審議事項2に係る答申案について (3) その他</p> <p>3 閉 会</p>
配 付 資 料	<p>次第・委員名簿・座席図 資料1 実地調査の概要について 資料2 答申の骨子（概要） 資料3 答申の骨子【重点審議事項2】（案） 資料4 今後のスケジュール</p> <p><参考資料> 1 第2回会議における意見の整理 2 第3回会議における意見の整理 3 実地調査の報告 4 重点審議事項2の理由書</p>

1 開 会

(内容省略)

2 案 件

議長 会議は今日を含めて2回となる。今日は答申の原案を作成する上で大事な会議になるので、幅広い観点から御意見をいただければと思う。それでは、案件（1）実地調査の報告について、事務局から説明をしていただきたい。

事務局より、資料について説明。（資料1）

議長 それでは、実地調査について委員の皆さんから御意見・御感想をいただきたい。

議長 まずは私から述べさせていただく。五所川原市中央公民館の特徴的な事業としては、「ハートネットを作ろう！～ちょっと気になる子の支援事業～」 「子どもフェスティバル」があり、職員が地域住民からの様々な意見に耳を傾け、地域住民から学ぶ姿勢で事業を組み立てている姿が印象的である。また、地域団体のネットワークやコーディネートの拠点となっている点も特徴的である。むつ市中央公民館では、「むつ市民大学」「16 ミリ映画上映会」「館長になる塾」などの特徴的的事业を実施しているが、特色のある企画を実行する館長の行動力が特筆していた。また、「むつ市民大学」では、受講生が運営委員として講座の運営に関わるところが受講生の主体性を伸ばしていると感じた。八戸市立根城公民館では、「青年学級」という若者対象の講座が特筆している。40年以上継続して若者を対象とした学級が活発に継続していることは、全国的にもかなり珍しい。しかも、常に新しいメンバーが加入し続けていることも驚きである。その要因としては、担当の職員が参加者である若者の主体性をうまく引き出している点にあると考えている。八戸市立図書館では、首長部局が主導する「本のまち八戸事業」という取組において、図書館が行政内部における情報のハブとして機能することによって、行政の地域づくり施策の総合的な推進のエンジンを担っているところが印象的である。

委員 六戸町中央公民館では、人員削減により職員の負担が増加している中でも、貸館だけでなく、主催事業の充実に取り組む姿勢が印象的だった。事業の改善に意欲的に取り組んでいるので、地域の方々のさらなる協力があれば、人づくり・つながりづくり・地域づくりの拠点としての役割を担っていけると思う。放課後子ども教室でのゴルフ教室が特徴的で、指導員の方と六戸高校ゴルフ部の高校生ボランティアが運営に関わり、異年齢交流を促進できている。

委員 三沢市立図書館では、建物の老朽化が進んでいるが、地域住民が快適に利用できるように、館長を中心に創意工夫に努めている姿が印象的だった。また、三沢市の生涯学習課と連携して実施した「図書館カフェ」など、地域の方々と一緒に地域の活性化に取り組んでいる。三沢航空科学館では、4社の協力による指定管理が特徴的である。伝統工芸体験などの目新しい企画を取り入れることで、集客につながっている。また、常設展示がリニューアルされる点も、さらにおもしろい企画つながると期待している。

十和田市東コミュニティセンターでは、一本木沢ビオトープでの活動を通じて、地域全体で環境保全に取り組んでいる点が印象的だった。

委員 青森市中央市民センターでは、50年以上稼働しているプラネタリウムが印象的である。プログラムの解説を録音ではなく、毎回、担当職員が行っている点に職員の真心を感じる。つがる市立図書館は、ショッピングセンター内にあり、カフェが隣接しているなど、これまでの図書館の価値観が覆った。飲み物の持ち込みや借りた本を隣接市町で返却できるなどの魅力がある。三沢市立図書館では、地域住民の除雪ボランティアがあるなど、建物は古いが地域から大事に利用されているところが印象的だった。三沢航空科学館では、青森県教育支援プラットフォーム上北地区実行委員会の事務局を担っている。キャリア教育とのマッチングがうまくいっている点が特徴的である。

委員 青森市中央市民センターについては、施設の老朽化の課題があるが、常にソフト面のバージョンアップに取り組んでいて、高い利用率を維持できている点が印象的である。その中でもプラネタリウムでは、プログラムの企画・運営面でのノウハウや技術が、長年、担当職員間で引き継がれている点が特筆できる。青森市浪岡野沢公民館では、地域との結びつきが強く、農閑期の11月から3月までに事業が集中しているなど、農村部の公民館としての特徴が見られた。高齢化や人口減少の影響から地域活動を支える人材の確保が難しくなっている点が大きな課題である。また、担当職員が地区の小学校との共催での公民館まつりを苦勞の末に実現した話が印象的だった。平成29年に新築された八戸市根城公民館では、バリアフリー、土足入館、エレベーターなど、設備面で高齢者の利便性の向上が図られていた。新築の際、住民の意見が多数取り入れられているところは、他の施設にとっても参考になると思う。八戸市立図書館は、上から見ると星型をしているユニークな外観が特徴的な施設である。対応していただいた職員の方の「他課との連携により“孤立した出先機関”ではなく行政の組織であることが実感できた」という話が大変印象に残っている。

委員 青森市中央市民センターに関しては、建物は老朽化しているが、市民の活発な利用が見られる点が特筆している。登録団体が約400あり、ほぼ100%の利用率を維持している。また、吹き抜けになっている内部の構造に特徴がある。生涯学習推進員の設置により、分館及び地区館の講座の企画運営を支援していて、地域における社会教育の推進に貢献できている。つがる市立図書館では、カフェの併設や書籍消毒機などの最新の設備が特に印象に残っている。十和田市東コミュニティセンターでは、地域に根ざした活動に特徴がある。近隣の大学との連携や地域住民の協力など地域が一体となった活動が行われている。十和田市現代美術館では、美術館の作品や企画が、地域での活動につながるよう工夫され、美術館がまちづくりに大きく貢献している点が特徴的だと感じた。

委員 五所川原市中央公民館については、私自身、五所川原市内での勤務が長かったこともあり、施設での活動に関わることも多く、内情についても熟知しているつもりである。施設は老朽化が進んでいるが、必要に応じて修繕を加えながら運営している。市民の活動状況は活発で、ひっきりなしに様々な団体が利用に訪れている。「ハートネットを作ろう！～ちょっと気になる子の支援事業～」が特徴的な事業で、発達障害の子どもたちとその親の居場所づくりを通じた支援を行うことで、施設が社会的困難を抱える人々を支える拠点として機能している。また、地域の団体と幅広く連携ができ

ている点も特筆している。つがる市立図書館は、来館者への思いやりにあふれる図書館だと感じた。子どもたちが寝転がれるスペースがあるなど、幅の広い年齢層の人たちに受け入れられる施設だと思う。また、教員OBや図書館のスタッフによる子どもたちの学習支援も地域との連携につながっている。全体としては、民間企業との連携がうまくいった事例である。十和田市現代美術館は、地域の中に美術館がとてもうまくマッチしている印象を受けた。美術の専門家であるコンシェルジュが配置され、地域と美術館をつなぐ取組を進めている。小学校との連携事業や地元商店街を巻き込んだ企画など地域と一体となった取組が特筆できる。気になる点としては、学校との連携において、教育課程上の学習内容はかなりのボリュームがあるので、企画の実施時期や内容について留意する必要がある。また、対応していただいた職員の方の「学校との連携においては、教育委員会のサポートがあれば活動しやすくなる」という話が印象に残っている。

委員 6件の調査に参加したが、どの施設も予算や人員確保の面で非常に苦慮しながら事業に取り組んでいる印象を持った。年間を通じたイベントや事業の実施は難しいので、地域住民や地域の団体と連携して運営できている施設は成果を上げていると思う。例えば、三沢航空科学館では、多様な団体と連携することで、200以上の科学実験工房でのメニューを出前講座として通年で提供することができる。また、十和田市東コミュニティセンターのメイン事業の「東コミュニティセンターまつり」では、普段からセンターを利用している団体の発表の場として、他団体とつながるきっかけの場になっている。1つのイベントとして終わるのではなく、さらに次の利用促進につながっているという点が大きいと感じた。その他の施設に関しては、ボランティア等に関しても、普段から利用する団体との連携があると大きな成果につながっていると思う。また、それぞれ事情が違うので一概には言えないが、指定管理者制度に関しては、継続ありきの施設も見受けられる。運営に関しては、指定管理者制度の見直しが必要な施設もあるのではないかと。

議長 委員の皆さんからの報告を伺い「ハード面の課題はソフト面の工夫で乗り越えられる」ということが見えてきた。そういった内容を、ぜひ答申に盛り込んでいただきたい。

(休憩)

議長 それでは、案件(2)答申の骨子案について審議していきたいと思う。まずは事務局から資料の説明をしていただきたい。

事務局より、資料について説明。(資料2・3)

議長 答申の第2章の構成や内容について、事務局より説明があった。まずは、「1 県内社会教育施設の現状と課題」の内容について、御質問や御意見をいただきたい。

委員 学校との連携において、社会教育施設が各学校での取組を取りまとめることができれば、さらに効果的な取組につながると考えている。

議長 地域学校協働活動にも関わる内容である。

委員 人口減少や高齢化により活動の継続が困難な団体も多くなってきていることから、特に農村部の公民館では、地域における団体との連携が難しくなっている。今後はさらにこういった課題が大きくなっていくと考える。また、福祉領域において生涯学習は余暇活動ととらえられ、生活支援としての福祉的対象として見られることが少ない傾向にあるので、施設までの移動手段の提供を含め、福祉分野を含めた行政との理解促進は必要である。

委員 地域コーディネーターとして、地域の学校の学習活動に関わった経験があるが、各学校における教育活動に地域の人たちが深く関わっていくためには、教員と地域の人たちが同じレベルで課題意識を共有する必要があると考えている。(2)連携・協働の学校の理解促進の中に、ぜひ盛り込んでいただきたい。また、現在、新型コロナウイルスの影響により、各学校ではオンライン授業の取組が進められているが、インターネット環境が整っていない家庭も存在している。そのような家庭への支援も公民館や図書館などの社会教育施設が担うことができると考えている。

議長 続いて「2 特色ある県内社会教育施設の取組」の内容について、御質問や御意見をいただきたい。

委員 実地調査で複数の施設に足を運んでみて、相手を思いやる職員の姿勢が魅力的な講座につながっていると感じた。活気のある施設では、職員の方から伝わってくる優しさや真心、意欲、笑顔といったものがあり、人を引きつける何かがあるように感じる。議長から施設の老朽化の問題はソフト面でカバーできるという話があったが、職員の姿勢もその内容に関わると考えている。

議長 個人的には同感である。職員の姿勢に関しても、答申に盛り込むことを検討いただきたい。

委員 各施設では、予算や人員に課題を抱えながらも、多様なニーズに応えるためにソフト面での工夫に取り組んでいる。真摯に利用者の声に耳を傾ける姿勢は、大変すばらしいと感じた。

議長 受講者のニーズの把握は非常に重要な要素である。特に社会的困難を抱えている人々への対応として、利用者の声に耳を傾けるという内容を結びつけることができると思う。

委員 公民館・図書館以外の社会教育施設については、どの程度、答申に盛り込むのか。

事務局 公民館・図書館以外の社会教育施設については、当課の所管外のため、「3 今後の社会教育施設に求められる役割」に盛り込むことは難しいが、実地調査で把握した内容を特色ある取組として、取り入れることを考えている。

議長 実地調査において、博物館の取組は参考になる内容が多かった。積極的に答申に取り入れていただきたい。

議長 「3 今後の社会教育施設に求められる役割」の内容も含めて、御質問や御意見をいただきたい。

委員 キャリア教育の推進に関して、上北地区においては、三沢航空科学館の中に県の事業である教育支援プラットフォームの事務局が存在していることが大きな成果につながっていると思う。社会教育施設の中に活動の拠点をつくることは、地域が一体となった教育活動の支援に結びつくのではないか。学校現場は、教育課程上の学習活動が数多くあるため多忙である。地域からの学校への支援を結びつける拠点が地域の中にあれば、学校現場としては非常に助かる。そういった内容についても、ぜひ答申に盛り込んでいただきたい。

委員 社会教育施設の中に活動の拠点をつくることは、地域コーディネーターが活動しやすい環境づくりにもつながる話だと思う。

議長 非常に重要な視点である。ぜひ答申に盛り込んでいただきたい。また、(3)多様な主体との連携・協働の中に、連携・協働を進めるための工夫に関する柱建てを入れてもいいのではないか。先ほどの施設の中の拠点づくりや地域コーディネーターの活動に関する内容が入ってくると思う。地域コーディネーターはつなぐだけでなく、地域住民と一緒に活動することも関わり方として重要である。

委員 地域コーディネーターの活動に関しては、学校側の受け入れ体制が十分とは言えないと感じている。地域と学校の連携の促進を図る上で、地域コーディネーターが活動しやすい環境を整備していくことは重要な視点である。また、キャリア教育に関しては、多くの学校で実施されているが、各学校間の横のつながりがほとんどない状態である。先ほど、社会教育施設の中に活動の拠点をつくる話があったが、そのような拠点が各学校間の情報共有を担うことができれば、さらに効果的な活動につながると考えている。

議長 各学校や地域コーディネーター間の連携・協働も重要である。活動に関わる人たちの情報共有は、活動しやすい環境づくりを進める上での大事な視点である。

議長 それでは、案件(3)その他ということで、今後のスケジュールについて事務局から説明をしていただきたい。

事務局より、今後のスケジュールについて説明。(資料4)

3 閉会

(内容省略)